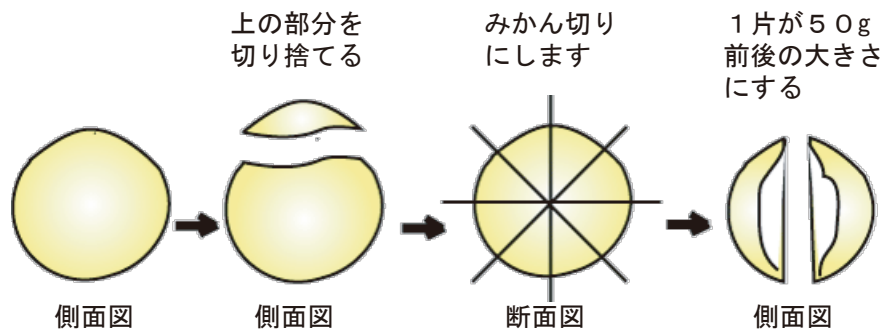


1 種イモの準備

山の芋は灌水・排水の土壌を好む性質があるので家庭菜園で栽培する場合、畑の状態により、うねを高くしたり低くしたり整えてください。植付け時期が近づく3月上旬～4月上旬になったら、購入した種芋を下記の手順で準備してください。タネ芋はまず上の部分を切除、そして芽がでるのを均一にしたりするためにまず、種芋を切断する必要があります。



まず、上のつる首の部分を切捨てます。そしてそれを一つが50～60gぐらいになるように、(4～8個)みかん切りでカットしていきます。(多少大きさによって調節してください)一つ一つをみかんの一片のように切ってください。切断した後、消石灰を切断面にふりつけておき、2～3日日陰などで乾かしておきます。

2 植え方

植え穴の位置は大切です。畑であれば、うねの中央によりすぎても、外側すぎても、いもの収量や品質を悪くします。うねの肩から少し内側に左右交互30cm前後幅をとってください。うねの深さは約7cm前後で、植える穴は、できるだけ柔らかくしておいてください。

植え方は、切断面を上にして、最初に切り取った頂頭部(頭の部分)をうねの外側に向けて、皮の部分が土とよく密着するように軽く押さえてから、2～3cmぐらい軽く土をかぶせます。土をかけすぎると、発芽の不揃いがおきたり、腐敗などの原因になりますので注意してください。また、乾燥防止のために『モミガラ』などで覆うとさらに良いです。

プランター栽培の場合は、深さ30cm以上のものを使用してください。

自然薯のような長さの芋はプランター栽培は無理ですが、山の芋のような丸形のものには十分栽培が可能です！ただし、山の芋はつる性の植物ですから支柱が必要です！

元肥は、5月下旬～6月下旬に、追肥は、7月下旬～8月上旬ごろに施します。

追肥の時期には土の水分量でいもの生育が左右されるので、水不足や水のやりすぎに注意してください。